

七条中学校だより5月3号

京都市立七条中学校

令和8年5月8日

発行:校長 林 秀雄

いじめを“自分ごと”として考えるために

5月は「憲法月間」です。この機会に、私は皆さんに“いじめ”について改めて考えてほしいと思っています。ただし、ここで話したいのは「誰かを責めるための話」ではありません。皆さん一人ひとりが、自分の心と向き合い、主体的に考えるための時間にしてほしいという願いからです。

いじめは特別な出来事ではなく、日常の中に潜んでいます。突然どこから現れるものではありません。＜・日常の中の小さな言動・軽い冗談のつもりの悪口・何となくの仲間外れ・SNSでのノリの延長＞等。こうした行動が積み重なることで、誰かを深く傷つけてしまうことがあります。だからこそ、皆さんの「小さな選択」が、クラスや学年の雰囲気をつくります。

いじめを“生まない”クラスにするために、ここで、皆さんに3つの問いを投げかけます。これは「正解を探す問い」ではなく、自分自身に向ける問いです。

- ①見て見ぬふりをしないために、どんな勇気が必要だろう？いじめを止めることは簡単ではありません。でも、
・「それは言いすぎだよ」と一言伝える
・困っている人に「大丈夫？」と声をかける
・先生に相談する。
こうした行動も立派な勇気です。あなたなら、どんな行動ができそうですか？
- ②自分の言葉や行動は、相手にどう届いているだろう？自分は冗談のつもりでも、相手には違う意味で届くことがあります。「もし自分が言われたらどう感じるか」一度立ち止まって考えるだけで、クラスの雰囲気は大きく変わります。
- ③“安心して過ごせるクラス”とは、どんなクラスだろう？
＜・失敗しても笑われない・意見を言っても否定されない・困っている人に自然と手が伸びる＞等。そんなクラスは、行事でも学習でも力を発揮します。あなたが思う“安心できるクラス”の条件は何ですか？

いじめについて考えることは、誰かのためだけでなく“自分の未来”のためにも重要です。「人を大切にできる力」「自分を大切にできる力」を育てることにつながります。これから皆さんが生きていく社会でも、相手の気持ちを想像し、行動できる人は必ず信頼され、仲間に恵まれます。

最後に、いじめをなくすためには、皆さん一人ひとりの選択と行動が大切です。皆さんの選択と行動が七条中学校の未来をつくります。5月、憲法月間。どうかこの機会に、自分の心に問いかけてみてください。そして、七条中学校を「誰もが安心して過ごせる学校」にしていきたいと思います。

地域に貢献するということ

先日、地域の方が学校を訪問された際に、こんなお話をしてくださいました。

「校長先生、いつもお世話になっています。七条中の●●部の生徒（や卒業生）が祭りの神輿を担ぎにきてくれました。地域としてはとても嬉しく感じています。これからも地域の行事に若い世代が参加してくれることを望んでいます。」

この言葉には、七条中の生徒への温かい信頼と期待が込められていました。そして同時に、皆さんが地域にとってどれほど大切な存在なのかを改めて感じる瞬間でもありました。

「地域に貢献する」と聞くと、何か大きなことをしなければいけないように思うかもしれませんが、でも、実際はそうではありません。
・地域のお祭りを手伝う
・挨拶をする
・困っている人に声をかける
・学校の外でも七条中の一員として誠実に行動する等。こうした一つひとつの行動が、地域の人にとっては大きな喜びになります。今回の地域の祭りに参加した生徒の皆さんの姿は、まさにその象徴でした。地域の方は「若い力が地域に入ってくれることが嬉しい」と話してくださいました。その言葉は、皆さんの行動が地域を元気にし、未来につながる力になっているという証です。

また、皆さんは、学校の中だけでなく、地域社会の一員として生きています。そして社会は、皆さんのような若い世代の力を必要としています。
・誰かの役に立つこと
・地域をより良くしようとする姿勢
・自分の行動が周りに影響を与えるという自覚等。これらは、これから大人になっていく皆さんにとって、とても大切な力です。

最後に、今回いただいた地域の方からの言葉は、七条中の生徒が地域に信頼され、期待されている証です。そしてその信頼は、皆さん一人ひとりの行動の積み重ねによって生まれています。どうかこれからも、「自分にできる小さな貢献は何だろう」と考えながら、地域や社会と関わってほしいと思います。皆さんの行動が、七条中学校の誇りとなり、地域の未来をつくっていきます。